

練馬区小中一貫教育資料作成委員会（第7回）「表現力の育成」部会 要点録

開催日時	平成21年10月22日(木) 午後4時20分～午後6時10分	
会場	練馬区役所本庁舎19階 1902会議室	
出席者	委員	村松賢一、荻部一夫、片柳博文、山口義一、武井和幸、井上康子、武者裕子、三浦秀樹、根本喜代江（敬称略）
	その他	教育出版
	事務局	五十嵐浩子 統括指導主事、谷川拓也 指導主事

委員

これから第7回小中一貫教育資料作成委員会の表現力部会を始める。本日も忌憚のないご意見をいただきたい。アドバイザーよりご挨拶をお願いしたい。

アドバイザー

先日、小学校・中学校の公開研修会を拝見した。中学校の授業を小学校の先生も参観するというもので、11月には小学校の授業を中学校の先生が見るということだった。小中連携を考える上でお互いの授業を見合うのは第一歩かなと感じ興味深かった。我々も全国的に問題提起できるような素晴らしいものを打ち出せればと思いますのでよろしくをお願いしたい。

委員

事務局より本日の資料等について説明いただきたい。

事務局

一つ目の資料として他部会の流れについて別紙をお配りした。後ほど統括指導主事より説明する。A3のものは各委員に作成していただいた表現力の項目と各学習期の児童・生徒につけたい力を表にまとめたもの。私の方からは前回の「表現力について」を手直したものの。また副部長からは第Ⅲ期子どもたちについてまとめていただいている。

まず統括指導主事より他部会の進捗状況等、説明させていただく。

事務局

お配りした資料は10月19日の第5回小中一貫教育推進委員会で現在の部会の進捗ということで、各部会の要点録、資料等から大まかなものをまとめて出したものだ。資料作成委員会が何をしているかを報告する初めての場であったので、1年目は中間報告書、2年目は子どもたちのワークシートや先生の指導資料を作るという大枠と、現時点では各部会が9年間でどんな力、態度、能力等を子どもに身につけさせたいかの重点となる項目、目指す子ども像を検討していることを説明した。

「心の教育の推進」部会では情報モラルは柱として取り上げず、五つの重点項目の中で指導していくこと、学習期ごとではなく重点項目ごとに指導の重点を設定すること等を確認している。「体力の向上」部会では児童・生徒に身につけさせたい体力を二つの視点から検討している。

三つの定義についてはまだしっかりと固まっておらず、学習期ごとの目標・子ども像は表に挙がっているものをご覧いただきたい。「キャリア教育の推進」部会についてはこれまで出されたいろいろな資料をもとにしながら、実践例から小中一貫教育の教育内容に発展させる方向で進めている。構成要素は二つに絞り、学習期ごとにキャッチフレーズをつけることを提案している。

事務局

本部会については今後検討するにあたり内容の変更もあり得るという前提で、これまでのものを簡単にまとめ報告している。

委員

ご質問がなければ協議に移る。はじめに事務局から前回の話を受けて再提案ということで「表現について」の文章がある。コメントをいただきたい。

前回から大きく変えた点は三つで、表現の役割について「自己アピール、情報を正確に伝える表現力」という視点が抜けていたので追加したのが1点目。2点目は伝える側の力の定義を詳しく説明したことで3点目は最後に「児童・生徒の伝える力を高めていく」といった文を増やしている。

委員

表現力についての定義は前回よりはっきり書かれていると思うがどうか。

事務局

以前プロットをお示ししたとおり、答申、検討の視点、重視する指導項目、目指す子どもの姿で6ページを皆さんで作成していただく。推進委員会で報告をした際に1点注文があった。中1ギャップを解消し、滑らかに接続するためにⅡ期の活動に特徴をもたせた練馬の指導資料にしてほしいとのことである。

今回の委員会では「表現力とは」について本部会の検討の視点について詳しくしていただきたいこと、そして、Ⅱ期をどう充実させ、特徴をもたせるかを明らかにしていただきたい。

「表現力とは」については、表現力にはこういう力が大事なので育てたいといきなり出しても何の事かご理解いただけない。このような視点で検討してきた結果、これらの力が必要であると絞ったという説明の部分が中間報告書には欲しいということだ。

事務局としては次回までに、はじめにの段落を題名を変え表現力部会の検討の視点という形で、五つの項目に絞った流れで文章を書き直して来る。

アドバイザー

「TPOに応じて言葉を使い分ける力」は大切なことなので、ぜひ入れてもらいたいと思うがどこに出てくるのか。

事務局

相手に応じて相手を意識する、相手や場に応じた言葉づかいということだったので「態度・

相手意識」につながると思うが。

アドバイザー

では伝える側の表現力として三つ並んでいるものの最初は「相手や状況に応じた言葉づかい」、2番目が「基本的な思いや考えを言葉で表現する力」、3番目が「身体表現、機械、作品などを使い効果的に表現する」と理解していいか。ここにくると非常にプレゼンテーションらしい感じが出てくる。

委員

3段落目の最初の行と最後の行に「プレゼンテーション」という同じ言葉が使われているが、これはどうしたものかと思う。

事務局

自己アピール、自分をPRする力も必要だろうと思い、その説明のために「プレゼンテーション」という言葉を使ったが、いいのか悪いのか正直ちょっとぶれている。

アドバイザー

最後のところはプレゼンテーションという言葉を使わず「表現力」にしてはどうか。

委員

なるほど。「プレゼンテーション」という言葉はどうしても企画の説明会のような狭い意味に感じてしまう。

委員

指導項目として出てくる五つの言葉は、「調べる力」「組み立てる力」「表現に関する技能」「態度・相手意識について」「語い力」で統一した方がよいと思う。
答申では「～伝え合う活動」となっているが、我々は発信する方ということで進んでいるので、なぜそう決まったかも盛り込まなくてはならないか。

委員

「伝え合う活動などを行う」という部分だと思うが、「伝え合う力を育てる」とは言っていないのでいいのではないか。

委員

活動自体は、学習過程でそうなっていくと思う。

委員

最終的にそういう力も付くだろうが、とりあえず活動の形がそうであれば問題ない。そういう理解でうまく文章を作ればよい。

事務局

よろしくお願いします。

委員

次に各学習期の児童・生徒像について副部長よりⅢ期の再提案があるので説明いただきたい。

委員

大きく変えたのは第3段落。第2段落では言葉で自分の考えを深めていく活動に重点を置き、次に相手意識や目的意識、「伝え合う」活動もしていくという趣旨でこのような文章に直した。

委員

第2段落は1文が3行半あり、ちょっと長いかなと感じた。

委員

3段落目は簡単に短くできるかもしれない。2段落目は何が言いたいのかよく分からなくなってしまった。少し平易な言葉を考えるとして、「具体的には与えられた情報や資料について、目的意識を持って自分の意見を述べたり、客観的に論証したりなど、表現活動を通して～」というような感じでどうか。

アドバイザー

「自分なりの意見を述べる」と「客観的に論証する」とはどう違うのか。

委員

自分の内外みたいな感じだ。自分の内側のことを外へ出すのと、外にあるもの、状況を伝えるようなことの違い。

アドバイザー

主観的なことと客観的なことでよいか。ディベートなどでは、自分の意見を述べる時にも「客観的論証」が必要なので重なる部分があり、どのように区別されているのかと。

委員

客観的に「説明する」ということでないか。

アドバイザー

「自分の意見を述べたり、説明したりする」なら分かりやすい。

事務局

全国学力調査での正答率の低い問題では、意見は言えるが根拠を示せないなどの特徴的な課題がある。「根拠」という言葉はどうか。

委員

「自分なりに根拠に基づいて意見を述べたり…」といった感じになるか。だいぶすっきりしたがもう少し推敲する必要がある。第1段落の「概念」という言葉も含めて少し考えてみる。

委員

次に指導項目の内容に移るが、表の1番目の段と2番目の段のちがいは何か。

委員

上が定義で下がその説明だったと思う。

委員

分かりました。では「調べる力」について委員よりご説明いただきたい。

委員

I期の目標で抜けているのは「様々な調査方法を理解することができる」でやり方をまず理解する。II期では「テーマから調査方法の見通しを立てることができる。」で調査方法は前期に理解しているので次の段階として見通しを立てる。III期は「原因と結果の関係でとらえ、データに基づき考察することができる。」とした。

委員

先ほど1段目は定義で2段目がその説明とのことだったが、2段目は全体を見て評価基準のようなものに思えたのだが。

事務局

皆さんにお願いした際に1段目は重要項目として「何々する力」、2段目には「何々する力」の簡単な解説、各学習期には主な目標ということで書いてもらった。

委員

今縦に見ているが、2段目を見ると文末表現がまちまちなので横に見ていく必要もある。この段がマトリックスのどの部分に反映されるか想定しておかなければならないが。

事務局

他の部会とも相談するが、説明自体はマトリックスに入れようとは思っていなかった。各学習期の目標はそのまま入れてしまいたいと思っている。

委員

自分の「調べる力」の説明もまどろっこしい感じがするので、なくてもいいのではと思った。

委員

事務局に再度伺う。このマトリックスのここを書くことは何なのか。

事務局

キャリア教育は実践活動が入り、二つの重視する指導項目を身につけるといふ考え。心の教育では軸の持ち方が横になっていて、学年ごとに重点を想定している。体力は検討を始めたところだ。検討を始めた際は活動を並べるのではなく「何々する力」といふのがあればいいと思つた。

委員

心の教育がそういうマトリックスでOKといふことは4つの部会はマトリックスを統一するわけではないのか。

事務局

マトリックスをまとめ一覧にすることは統一見解である。

委員

これに当てはめろといふことだと思つているから、そのように進めているのだが。副部長、このマトリックスに当てはめようとしている方向で今後も進めてよいか。

委員

この時期にはこんな力を育てたいといふのがようやくまとまりかかっているのにここへ全部入れてしまったら、一番大きなここには何を書くのかといふ話になってしまう。活動例を入れている部会もあるがなぜ活動例なのかといふ疑問もある。ここは育てる力、目標とするものをはっきりさせた上で、次の段階としてこんな活動例もあるといふようにどの部会も統一してもらいたい。

事務局

キャリア教育では小中連携といふ視点からいろいろな活動・実践をしてきたので、小中一貫に発展させられる教育内容は何かといふことがスタートになっている。

委員

その活動で目指すもの、つけたい力といふ形で検討できないのか。我々も活動から始まって抽象化していった。活動ありきではあとが厳しいのではないのか。

委員

時間もないので「組み立てる力」について委員よりご説明いただきたい。

委員

前回お話ししたように「言葉を組み立てる力」と「演出を組み立てる力」の2本を定義として立てている。説明については「何々する力」とすると定義と同じようになってしまうので「何々すること」として説明してある。各学習期の目標もそれぞれ出させていたが、「表現に関

する技能」とダブってしまうところが多いかなという気がしている。

委員

次に「表現に関する技能」について委員よりお願いしたい。

委員

文章だけではうまく伝わらないので、各学習期の目標にかかわるこれまでの話し合いで出た単語を書きだし補足資料とした。Ⅰ期ではこんなことを知り、こんなことを経験し、こんなことができ、それがⅡ期では少し活用できて効果を考えてなおかつ応用ができて、Ⅲ期ではそれらをすべてまとめて複合しながらする力というふうに考えてまとめてみた。

委員

続いて「態度・相手意識について」を委員より説明いただきたい。

委員

いくつか訂正をお願いする。定義の二つ目を「相手や場に応じて言葉を使い分ける力」として欲しい。説明の一つ目も「相手に興味をまずはもたせるように、分かりやすく伝えようとする力」に訂正していただきたい。Ⅰ期、Ⅱ期の目標として小学生のイメージがよく分からなかったので皆さんからアイデアをいただきたい。最後にⅢ期の目標の二番目も「相手や場に応じた言葉づかいや態度をあわせて発言することができる。」に変更をお願いしたい。

委員

最後に「語い力」の説明をお願いしたい。

委員

語彙力を入力、出力、知識の三つの側面で捉え、それぞれを定義とした。語彙力は学習期を問わずやっていくので、言葉の吟味と活用ということでは目標は全期を通してになるかと思ったが目安になるものが欲しいのでそれぞれ挙げてみた。特に第Ⅰ期の「家庭生活や学校生活を営む上で、必要な語いを身につけている。」はずっとつながっている目標だと思う。

委員

一通り5名の委員に説明いただいたが、ご意見、ご質問はないか。

委員

「組み立てる力」の「順序立てて話すために言葉を組み立てる」という定義の説明に違和感がある。組み立てる力と適切な言葉を使うということは違うので「自分の考えや思いを相手に分かりやすく伝えるために言葉の順序を考える。」というような説明がよいのでは。

委員

話すための言葉を順序立てて組み立てる力と考えればいいのか。適切な言葉というと「吟味」

とかに関わってしまうということですね。

私から全体を通して1点。2段目の説明の最後が「何々できる」だと目標のような印象を受けるので、「何々の力」という表現に統一した方がいいと思う。中間報告の中になぜこのような力を重視したかの説明を入れてほしいとの話だったが、それぞれの力がどういうものかという説明も入れたい。そのためにこの2段目を活用したいと思う。

委員

同感だ。「表現に関する技能」というのはここに書かれている言葉だけではマトリックスに入れても伝わらない。重要なことだと思う。

事務局

これができるようになったから、この力は身についたと判断できる評価基準のような説明や解説などは、難しいと思うがぜひつけていただきたい。

委員

2段目はあくまでも我々が作りだした言葉の説明という形にし、各学習期の言葉の最後はマトリックスにする時に「何々できる」という形にすれば、内容や目標と読み取れるのでよいのではないか。

委員

組み立てる力の「絵とか劇化などの」というのは技能の方に入るのではという印象だが。

委員

「うなずき」「相槌」「声の大きさ」「話す速さ」などは技能と相手意識のどちらに入れた方がいいかというのもあるかと思う。

委員

相手意識かなとは思ったが、うなずいたり相槌の打てない小学生が結構いるのでそれを教える場も必要かと思いついた。

委員

うなずくことと相槌を打つことはやはり相手意識の方ではないか。

アドバイザー

相手意識だと思う。しかしこれは聞き手に求められていることで、我々は話す方に絞っているので、もったいないがカットした方がいい。聞き手の表現力ととらえれば入ってくるかもしれないが、全体が混乱する。

委員

「表現に関する技能」の定義で「～表現するための力」ということばがちょっと良くない。

力というよりも技能ではないか。

委員

「技能」。技だと思う。

委員

「態度・相手意識について」も「ついて」は取ってしまっていないのではないか。それから先ほどの語彙力の話で出た「吟味と活用」というのはぜひ入れたいという印象をもった。

委員

今回は今日でた意見をまとめ表の中に入れ込んでいく作業をしていきたい。マトリックスの書式については再度、事務局、副部長と私で検討し提案する。

統括指導主事から話のあった、第Ⅱ期で特徴ある提案をせよということについても次回皆さんの意見を伺いたい。こういう活動を入れていこうとか実際にこういう活動をしているというものを持ち寄っていただきたい。理論的にⅡ期を特徴づけるのは難しいので活動の部分で特徴づけるしかないと思うが。

アドバイザー

作文はいくらでもできると思うが、具体的にどういうことを入れるかというのが一番大事。一つ提案だがつけたい力の議論は非常に抽象的なので堂々めぐりしてしまう。もう一度具体的な活動に戻し、どんどんアイデアを出し合って、それに必要な表現力は何かを考えれば戻ってこられる。具体と抽象を行き来しながら議論した方がよいのではないかと思う。

委員

ご指導いただいた。皆さんにも特徴的な考え方を出示していただきありがたく思う。次回までに話し合いが効率的に進むよう副部長、事務局と3人で考え提案させていただきたい。忙しいなか、何度も集まっていたいただき申し訳ないが、よろしくお願ひしたい。今日はありがとうございました。

(第8回小中一貫教育資料作成委員会「表現力の育成」部会 日程確認)

11月20日(金) 16:00～ 場所未定(後日連絡)